

寒冷地形談話会通信

92年第3号 92/07/05発行

事務局：東京学芸大学・地理学教室・小泉研究室内
〒184 小金井市貫井北町4-1-1

1. 6月例会の報告

6月19日、本年度第2回例会が明治大学大学院棟にて行われました。発表者は戸田真夏（筑波大院）、柳田 誠（株アイ・エヌ・エー）。場所を変えて持たれた懇話会でも有意義な議論が行われました。発表内容は以下の通りです。

◆戸田真夏（筑波大・院）「山地斜面形成に及ぼす積雪の影響」

多雪地域の山地斜面には、浅いU字型の横断面型を持つ直線的な低次谷が特徴的に見られる。これは杉山（1987）によって筋状地形と呼ばれ、その形成プロセスについては十分な議論がなされていない。そこで演者らは新潟県東頸城丘陵において、積雪期間前後の斜面の侵食量および斜面下部の堆積物の量から斜面形成に及ぼす積雪の影響について考察を行った。

調査は第三系西山層の砂泥岩地で行われ、侵食量は斜面上部から基部までのほぼ一定距離間隔に穴を明け、その中に設置した基準点から地表までの深さをノギスで測量して求めた。

調査対象とした斜面は縦断型から上部・中部・下部の3区間に分けられた。上部の谷底部に露出した基盤岩は風化作用を受け節理が発達し、所々階段状になっているのに対し、中部・下部は研磨作用を受けた滑らかな谷底となり、基盤岩には条線がみられる。上部区間の侵食量には顕著な季節的変動はみられず、風化物の落下が主要なプロセスであると考えられる。一方中部・下部区間では積雪期（12-4月）の侵食量が無雪期（5-11月）のそれを上回っていることから、積雪が侵食に関与していると考えられる。また、この区間は3月まで積雪に覆われていることから、流水・雪崩による直接的な侵食作用は考えにくく、その主なプロセスはグライドによるものであると考えられる。

（文責 事務局）

◆柳田 誠（株アイ・エヌ・エー）「東北の地すべり・地すべり地形をみて考えたこと」

山地地形を考える上で地すべり地形が重要な要素であることを述べた。付図100万分の1地すべり地形分布図を見ると、東北地方の内帯山地には驚くほど多数の地すべり地形が分布する。多数の地すべり地形は面積的に山地の半分程度を占めるので、山地侵食作用の中で占める割合も大きいと予想される。東北地方内帯のみならず中標高・低標高の山地では、地すべりは重要な地形営力と推定される。しかし、地すべりによる侵食速度や侵食量など具体的な研究はなされていない。

地すべり地形は農業土木や砂防工学でいう「地すべり」とは異なる用語である。地すべり地形は「地すべり」現象の結果、形成された地形であるが、4万分の1空中写真を用いると、地すべり地形は長さ100m、深さ5m以下程度の規模では識別できない。これより小規模のものは地すべり地形として識別しにくい。現実には短い周期で頻繁に滑動するようであり、人家や農地の被害対策としては重視される。これらも大縮尺の空中写真、地形図や詳細な現地調査を使えば捉えることも可能と思われるが、局地的に必要な応じて実施されるべきものである。ここでは大～中規模な地すべり地形を広範囲で把握した。

地すべり地形の形成年代、滑動史が明かなものは少ないが、大分県のある地すべりは数10万年前に形成されたことがわかった。これを見るとあまり開析されていない地すべり地形でも意外に古いこと

が想像される。同様の例は他にいくつかある。おそらく地すべり土塊は浸透性が良いので開析谷ができにくい為であると思われる。なぜ開析速度が遅いのかが解明されると地すべり地形が地形発達史のなかで意味を持つようになるだろう。「東北の地すべり・地すべり地形」で地すべり地形のカタログは完成した。これからは山地地形の中で地すべり地形がどんな意味をもつのかを考えていくべきである。(文責 柳田)

2. 夏の学校のお知らせ

前回の談話会通信でお知らせした通り、本年度の夏の学校は8月18日～19日の1泊2日で月山で行うこととなりました。案内者は五百沢智也氏、荻谷愛彦氏(都立大 院)、土屋 巖氏 にお願ひし、氷河地形と残雪凹地、高山土壌について案内していただきます。現地ではテントの設営ができず全員小屋での宿泊となりますので、そのつもりで御願ひいたします。

- ・ 日程 8/18 12:00 月山神社休憩所(山頂)・・・昼食を済ませておいてください
大雪城雪渓(ニヴェーション、高山土壌について)
山頂小屋泊(1泊2食-¥5,900、素泊-¥3,500、昼食-¥400)
19 山頂一牛首(Snow-Patch) - 四谷川源流の氷成堆積物-姥沢(昼過ぎに解散)

17日10:00までに弥陀ヶ原に到着できる方についてはアジョン7-も可能です。参加を希望される方は荻谷さんまで直接連絡をとってください。

(都立大, 0426-77-1111 内線3836、自宅, 0427-79-6910)

・ 交通 月山山頂へは一般に次のようなアプローチが考えられます。

1. 鶴岡駅-庄内交通バス(¥1950+荷物代)-8合目弥陀ヶ原-登り2h
2. 鶴岡駅-庄内交通バス(¥1390+荷物代)-湯殿山神社-登り2.5h
3. 姥沢駐車場-登り2.5h
4. 弥陀ヶ原駐車場-登り2h

車の方は姥沢駐車場または弥陀ヶ原駐車場に置くことになります(各無料)。弥陀ヶ原駐車場は日の出前にこないと満車になる上、解散が姥沢になりますので山頂経由で弥陀ヶ原まで戻る健脚が必要になります(約4h)。

また、姥沢から鶴岡までのバスは運行されていないため、バスで帰られる方は弥陀ヶ原まで戻るようになりますので、できるだけ車の都合をつけていただきたいと思います。

《交通機関時間表》

鶴岡---月山8合目(庄内交通/1950円)

6:00	7:30
7:00	8:30
8:20	10:40(乗り換えあり、集合時間には間に合わない)

鶴岡---湯殿山(庄内交通/1390円)

7:00	8:21
9:10	10:32

いずれにせよ、自家用車で姥沢にはいるのが一番便利で、安価にあがるはずで。

3. 新入会員の紹介・住所変更

(新入会員) 柳田 誠 (株) ア・ユ・エ 〒230 横浜市鶴見区本町通1-21 TEL 045-511-5406
(住所変更) 恩田裕一 〒464-01 名古屋市千種区不老町
名古屋大学農学部林学科治山工学研究室
TEL 052-781-5111 (内6288) FAX 052-781-4447
(自宅) 〒465 名古屋市名東区龜の井1-100 ユ・ポ・ユ・105
TEL 052-704-9271

転居、所属の変更や会員名簿に誤りがありましたら事務局までお知らせください。

4. 9月例会のお知らせ

本年度第4回例会については次の談話会通信で改めてお知らせいたします。

5. 会費納入のお願い

会費納入ありがとうございます。引き続き受け付けていますのでまだの方はお早めをお願いします。
納入状況の照会などありましたら、往復ハガキで事務局までご連絡ください。

寒冷地形談話会 東京0-171342 1,500円/年

6. 古今書院からのお知らせ

本年度の地理評2号が「極地と高山の地形特集号—世界の周氷河環境の中での日本の位置づけ—」
となっています。まだお持ちでない方は一般の書店から注文できますのでどうぞ。

(主な内容)

「極地と高山の地形特集号のまえがき」 森脇喜一・岩田修二

「凍結融解作用の機構からみた周氷河地形」 松岡憲知

「谷川連峰の強風砂礫における表面礫の移動」 鈴木郁夫

「スピッツベルゲンおよびわが国の高山・山地における凍結融解による斜面物質移動」 澤口晋一

「フィンランド北部の岩海と礫質多角形土」 田淵 洋・原 芳生

「周氷河性斜面堆積物におけるマイクロファブリック」 山本憲志郎

「南極半島地域、セイム島とジェームズ・ロス島の永久凍土」 福田正己ほか

「日本における周氷河性平滑斜面の研究」 小泉武栄

「現在の日本における周氷河帯およびその推移帯と永久凍土との関係」 柳町 治

「周氷河斜面と更新世火山灰の分布からみた最終氷期の周氷河帯—非周氷河帯」 清水長正

「赤石山地高山域における周氷河作用による侵食小起伏面の形成」 須貝俊彦

「中国山地東部における後期更新世の山地堆積地形とその形成環境」 田中眞吾・野村亮太郎

「関東以西の低所における化石周氷河地形の形成環境」 小口 高

また、9月には多くのお手をお寄せいただいた山の本が出版される予定です。